

パネル発表「福井県獣医師会の壁新聞『ふんわり』」

大門由美子 川口真理子

(社)福井県獣医師会学校飼育動物対策委員会は平成13年に発足しました。福井県内の小学校等で飼育されている動物について、獣医師の立場から教職員や保護者を支援し、それによって「命の尊さ」「他者を思いやる気持ち」「共感する心」を育成する教育を援助することを目的として活動しています。

活動内容は、飼育動物の治療、飼育方法の紹介、ふれあい授業の援助などです。

発足当初は、委員会内部でも意見が様々でしたが、現在では支援窓口病院は県内開業者のほとんどを占め、治療もすべて無料で対応しています。これら治療や学校訪問、ふれあい授業などは、記録を残して獣医師会へと報告しています。また治療費は、委員会の予算から1校1万円で賄っています。平成13年から4回の講習会を開催し、教職員や獣医師、一般へ呼びかけて普及啓発に努めましたが、なかなか壁は厚く教育関係へのアプローチも方策が見えない状態でした。当初から動物飼育に関する冊子を作成する案があり、文科省や日獣、他県のお手本を眺めて、福井県ではどのように作成しようか議論を重ねました。学校へ積極的に入り込んでいくために、楽しい壁新聞にしようということになりました。動物を飼育することをためらっている学校、飼育している動物のことで困っている学校、動物飼育なんかとんでもない!と考えている学校へ「こんな風に飼えばいいですよ。」「動物がいます、子ども達がこんなに楽しそうですよ。」とまず伝えることを目標としました。

記念すべき第1号は、教室内でウサギとモルモットを飼育し、獣医師会に協力を要請しつつ教育的意義を考慮した飼育をしている小学校教諭の協力を得て、「うさぎ」をテーマとして作成しました。教諭が素晴らしい実践の文章を書いてくださったので、優等生的なしかし、飼育経験のない学校にはインパクトのあるものに仕上がりました。

第2号は、親しく支援させてもらっている小学校の教室内飼育のモルモットを取り上げました。実はこのモルモットは飼育2年目で亡くなり、教諭は子ども達へ「喪」の授業を行いました。それから半年後に新しいモルモットを教室へと迎え、子ども達と一緒に育てておられます。2号では、モルモットの紹介と、飼育していた動物を死



なせてしまった子ども達が、その悲しみを受け入れていく様子を伝えました。

続く第3号では、このクラスのその後を伝えねばならなかったのも、また教諭にお願いして新しいクラスの仲間のモルモットと子ども達の写真を頂いて日記風に構成しました。ところどころ、具体的な飼育方法やモルモットの特性を簡単に解説してあります。最後に、保護者からの声を掲載し、子ども達を取り巻く大人が全員総出で見守ることの大切さも伝えられたかなと思います。



特に心がけたことは、「飼育はそれほど難しくはない。ごく自然で楽しい。」ということです。動物と暮らすことは、大昔から人間の生活にあったことです。それを知識不足や誤解から遠ざけることなく、起きてくる問題を解決しながら、動物と暮らす楽しさを伝えていくことが、獣医師の仕事のひとつでしょう。これからも、1クラスでも多く動物を飼育する教室が増えることを願いながら、活動を続けて行きたいと思っています。

((社)福井県獣医師会)

